

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編

18

放課後児童施設

1 8 放課後児童施設

その1 施設の概要

放課後児童施設は加悦・野田川地域で実施している学童保育施設と、岩滝地域で実施している児童館です。

学童保育は加悦・野田川地域で7箇所実施していますが、町専用の施設で運営しているのは市場学童と山田学童の2箇所です。

はじめに、学童保育と児童館について説明します。

学童保育と児童館

- ① 学童保育は 保護者またはこれに代わる方が、就労等のため昼間家庭を留守にするなどの理由により、家庭保護に欠ける小学生の児童を保護し、その健やかな育成を図るため設置するためのもの（平成26年度までは原則3年生まで。平成27年度から6年生までに拡充。）。
利用料金は月3,000円（8月のみ6,000円）+おやつ代等（学習塾とは異なり、児童が自主的に学習や活動を行うもの。）
- ② 児童館は 児童に健全な遊びの場を提供し、個別的、集团的に指導し、健康を増進し、情操を豊かにするとともに、子供会、少年会、母親クラブ等の地域組織活動の育成助長を図ることを目的に、昭和38年12月に、京都府下最初の施設として設置。旧岩滝町は機業の町であり、その騒音で恵まれない環境にある児童に、静かな環境で学習・遊びを楽しむ施設として建設された。その後、平成14年4月から児童厚生員を設置し、学童保育的役割を担う場所となり、平成18年与謝野町に合併後も、児童の健全育成を中心とした活動を継続実施している。 無料（おやつ代別途）

【放課後児童施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
市場学童保育所	幾地910番地1	426.9㎡	91.7㎡	H17	委託
山田学童保育所	下山田376番地8	961.8㎡	84.7㎡	H17	委託
岩滝児童館	岩滝856番地1	1,208.7㎡	187.6㎡	S38	直営
合計		2,597.4㎡	364.0㎡		

【施設位置図】



その2 施設の物理的状況

① 老朽化の状況

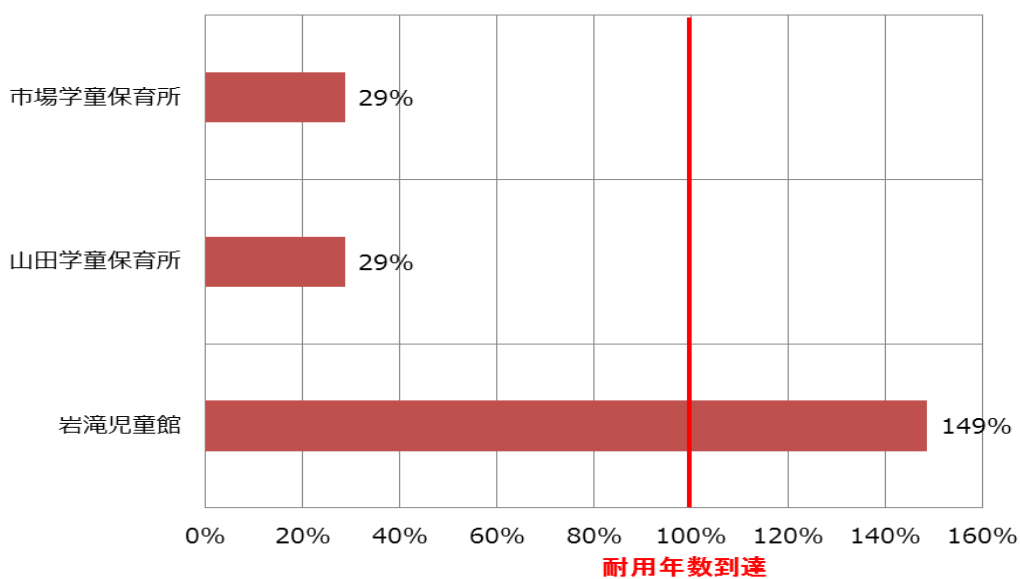
市場・山田の学童保育所に関しては、同時期（平成 17 年）に整備され、ほとんど同じ作りの施設になっています。一方で岩滝児童館は昭和 38 年に建設された府内で最も古い児童館で老朽化が激しく雨漏り等の不具合も見受けられます。

【放課後児童施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
市場学童保育所	木造1階建	H17	H52	29%	有
山田学童保育所	木造1階建	H17	H52	29%	有
岩滝児童館	木造1階建	S38	H10	149%	無

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えると耐用年数超過になります。

※耐用年数は木造35年を想定しています。



② バリアフリー化の状況

バリアフリー化の状況は以下のとおりです。

施設名	多目的トイレ	スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	エレベーター	その他
市場学童保育	○	○	-	○	-	-	
山田学童保育	○	○	-	○	-	-	
岩滝児童館	-	△	-	-	-	-	

※「○…設置済」、「△…一部設置」、「-…未設置」を表しています。

③ 防災に関する状況

岩滝児童館のみ避難所指定されています（水害のみ）。

山田学童保育は指定警戒区域内に位置しています。

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
市場学童保育	-	-	-	-	-
山田学童保育	-	-	-	-	警戒区域
岩滝児童館	○	-	-	-	-

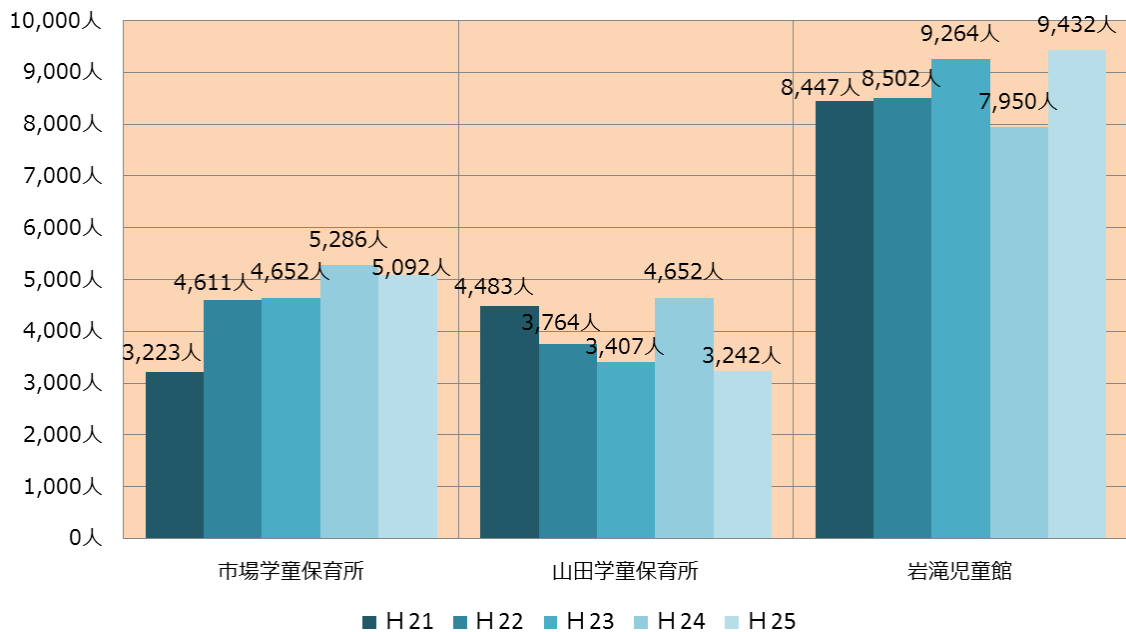
その3 施設の利用状況

施設の利用状況は以下のとおりです。年間の利用人数を示しています。

【放課後児童施設利用者推移表（延べ人数）】

施設名	利用延べ人数				
	H21	H22	H23	H24	H25
市場学童保育所	3,223人	4,611人	4,652人	5,286人	5,092人
山田学童保育所	4,483人	3,764人	3,407人	4,652人	3,242人
岩滝児童館	8,447人	8,502人	9,264人	7,950人	9,432人

【放課後児童施設利用者推移グラフ】



参考：与謝野町放課後児童健全育成事業利用状況

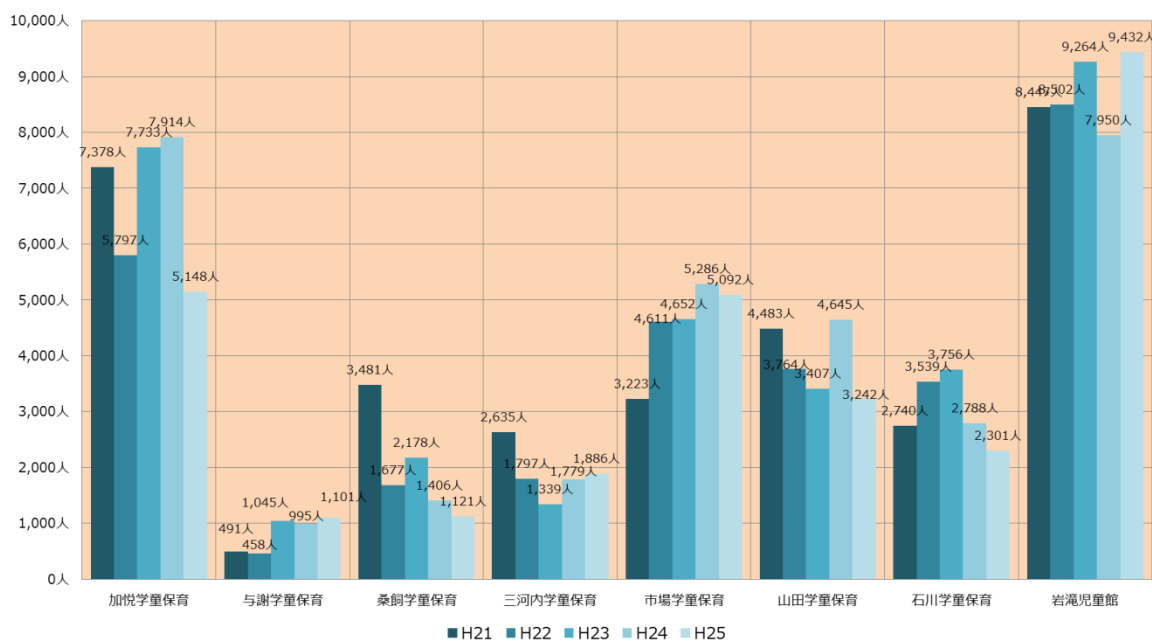
その他の施設（他の公共施設や民家借用など）で行われている学童保育などの放課後児童健全育成事業の利用者数の推移です。

【与謝野町放課後児童健全育成事業利用状況推移表】

事業名	延べ人数				
	H21	H22	H23	H24	H25
加悦学童保育	7,378人	5,797人	7,733人	7,914人	5,148人
与謝学童保育	491人	458人	1,045人	995人	1,101人
桑飼学童保育	3,481人	1,677人	2,178人	1,406人	1,121人
三河内学童保育	2,635人	1,797人	1,339人	1,779人	1,886人
市場学童保育	3,223人	4,611人	4,652人	5,286人	5,092人
山田学童保育	4,483人	3,764人	3,407人	4,645人	3,242人
石川学童保育	2,740人	3,539人	3,756人	2,788人	2,301人
岩滝児童館	8,447人	8,502人	9,264人	7,950人	9,432人
合計	32,878人	30,145人	33,374人	32,763人	29,323人

※三河内学童保育は三河内と岩屋の合計（平成25年度に統合）

【与謝野町放課後児童健全育成事業利用状況推移グラフ】



放課後児童健全育成事業の利用者は一時的増加傾向から平成25年度は減少に転じています。事業によって利用者数に偏りがあるのは各小学校の児童数によるところが大きいと考えられます。また、岩滝の児童館は幼稚園児から利用できますので学童保育より利用者が多くなっています。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

【放課後児童施設 管理・運営コスト一覧】

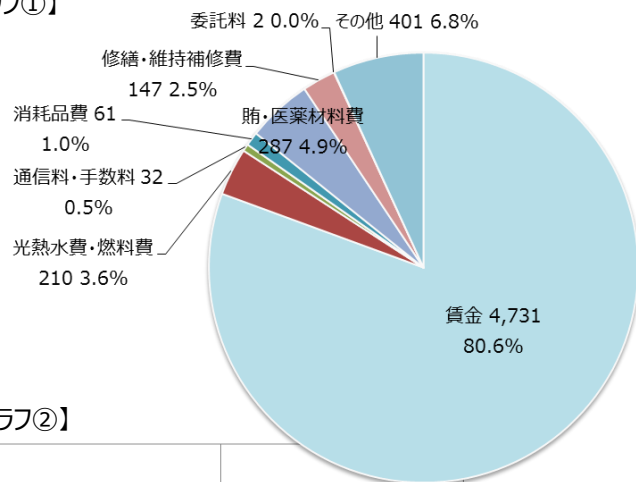
(単位：千円)

項目	市場学童保育所	山田学童保育所	岩滝児童館	合計
賃金	0	0	4,731	4,731
光熱水費・燃料費	0	0	210	210
通信料・手数料	0	0	32	32
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	0	0	61	61
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	287	287
修繕・維持補修費	0	0	147	147
委託料	0	0	2	2
指定管理料	0	0	0	0
その他	15	18	368	401
合計	15	18	5,838	5,871

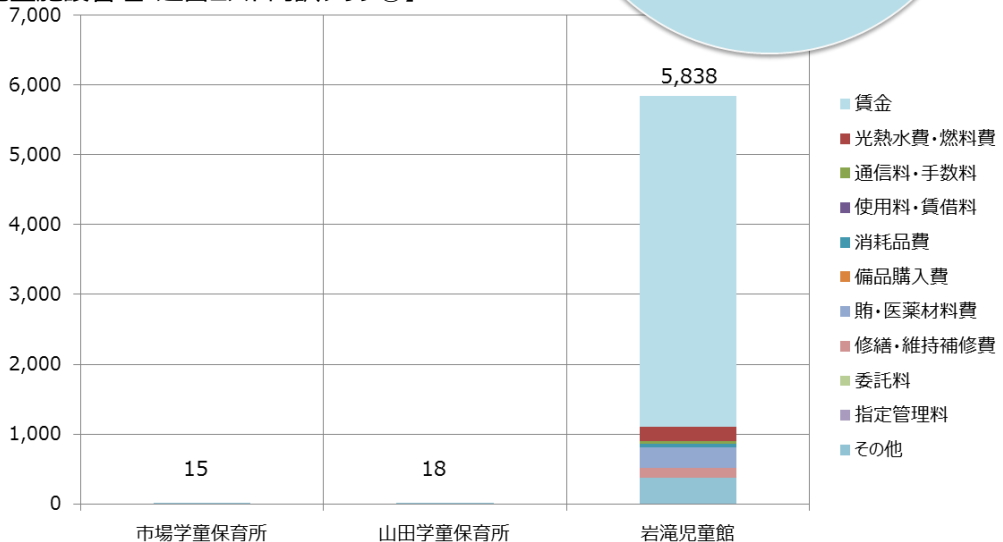
※金額は平成25年度の実績額です。

【放課後児童施設管理・運営コスト内訳グラフ①】

放課後児童施設の管理運営コストは、別に社会福祉協議会に学童保育事業を委託していますのでその委託料が約 3,000 万円かかっています。



【放課後児童施設管理・運営コスト内訳グラフ②】



② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数を既に経過している場合は5年以内に解体）。

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・33万円/m²（解体費用も含む：子育て支援施設）

○解体コスト・・・3万円/m²

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

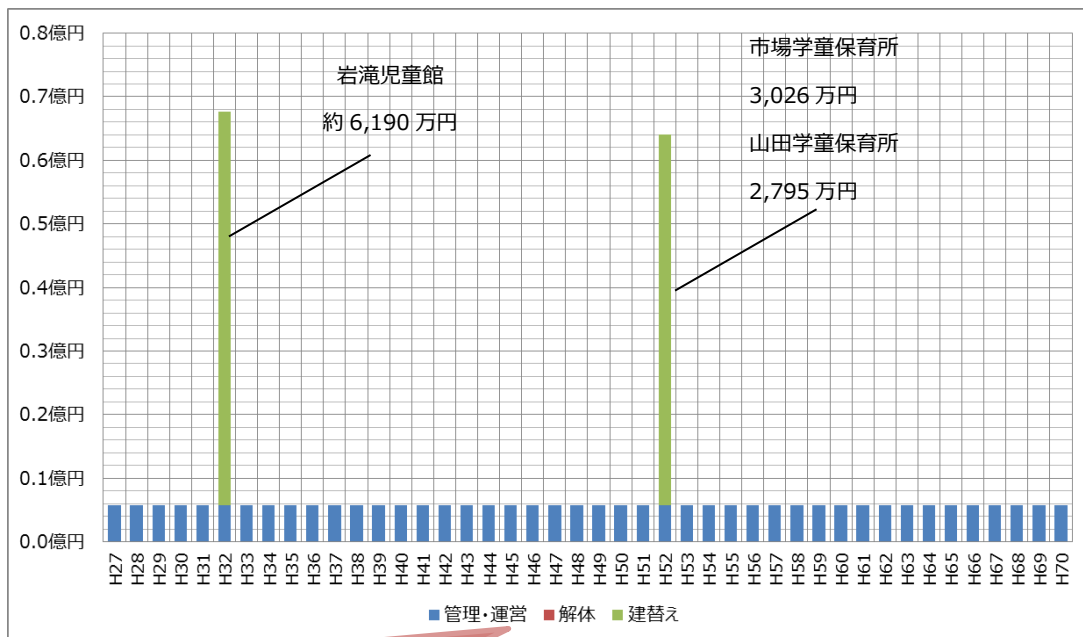
【放課後児童施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト	実施年度	コスト
市場学童保育所	H17	35年	14,438	H52	30,261	参考	2,751
山田学童保育所	H17	35年	17,325	H52	27,951	参考	2,541
岩滝児童館	S38	35年	2,170	H32	61,901	参考	5,627
			合計		120,113	合計	10,919

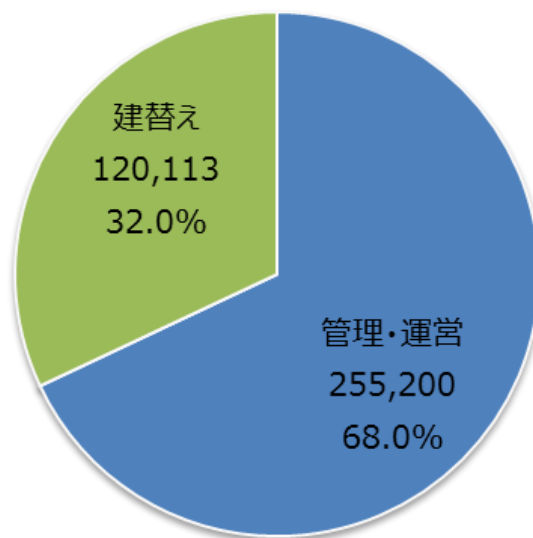
管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【放課後児童施設将来コスト推移表】



コスト総額約 3.8 億円（整備 1.2 億円、解体 0 億円、管理・運営 2.6 億円）

【放課後児童施設将来コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

利用人数は年々増加から減少に転じるなど概ね横ばい傾向にあります。平成 27 年度から小学 1 年生から 6 年生までの利用可能範囲を広げるため、利用者は増加していくものと考えられます。

●建物状況

市場・山田学童とともに平成 17 年に建設され築 10 年経過の比較的新しい建物です。入り口にはスロープと手すりが設置され、館内は大きな段差などはほとんどない状態です。

岩滝児童館については昭和 38 年の建物で安全性に不安があります。また、入り口の簡易スロープはあるものの、館内は大きな段差が多く、トイレも旧式のものがあります。

●コスト状況

管理・運営面でのコストですが、学童保育については社会福祉協議会に年間約 3,000 万円で学童保育事業を委託しているため、町の負担は建物保険のみとなっています。一方の岩滝児童館については無料開放施設ですが指導員の賃金などの支出があるため年間 580 万円ほどの管理・運営コストがかかります。利用者負担はおやつ代のみとなっています。

整備コストは今後の耐用年数到来による建替えに 1 億 2 千万円かかる見込みです。

●現状のまとめと今後の展望

岩滝地域のみにある児童館を廃止し、岩滝地域に学童保育施設を設置することが望ましく、また、加悦、

野田川地域においても学童保育の利用需要が伸びる中、施設の老朽化や規模が手狭な施設もあり、学校施設の有効活用を含めた新たな学童保育場所の検討が必要と考えます。

現在の保育所が認定こども園に統合される際には現行の保育所が空き施設となるため、そこで学童保育を実施することが望ましいと考えます。

現行施設については、児童館は安全性に不安があるため解体することが望ましく、市場・山田の学童保育所は地域のコミュニティースペースとしての活用されることも考えられます。